



つくろう 伸ばそう 鹿沼の文化

かぬま文化

No.171

発行人 鹿沼市文化協会
発行責任者 会長 鈴木 貢
編集委員会 委員長 黒川 榮三
印刷所 晃南印刷株

鹿沼市文化協会(鈴木貢会長)は1月15日、福田屋コンベンションホールで「令和4年新春のつどい」を開きました。従来の新年会から名称を変えた行事で、会員ら54人が参加しました。

当日は沼尾富士子副会長の開会のことばで幕を開け、鈴木貢会長の主催者挨拶の後、佐藤信市長、大島久幸議長、松井正一県議、木村剛考商工会議所会頭から新年を祝う挨拶と文芸賞受賞を称える言葉をいただきました。

さらに湯澤英之県議、福田義一副市長、中村仁教育長、宇賀神敏市議、鈴木紹平市議、大貫毅市議、山菅昭八文化協会名誉会長の紹介に続き、西山義信参与の乾杯の発声で祝宴に移りました。会は、新型コロナウイルス感染防止の為、酒類の提供を行わず、黙食での祝宴となりました。

今回は、令和2年度に栃木県芸術祭随筆部門の文芸賞を受賞された田多井祐美子さんを招き、司会者より受賞作品をご紹介いたしました。田多井さんは、阿部宗洋理事からお祝いの花束を贈られ、受賞の喜びや今後の決意を披露してくださいました。

祝宴のアトラクションでは、岩井富士八様、藤扇照花社中の皆様に華やかな踊りを舞っていただきました。会は、青木宗栄副会長の閉会のことばでお開きとなりました。(事務局 福田由子)

会長新年あいさつ

新年あけましておめでとうございます。

また、田多井祐美子様の「令和2年度 第74回 栃木県芸術祭随筆部門 文芸賞」受賞誠にありがとうございました。

今年こそは、コロナが収束することを願っていましたが、変異ウイルスの「オミクロン株」という新種が現れて感染拡大が心配です。

コロナ禍といわれて、2年が経過しました。コロナ禍の「禍」は、わざわざを表す言葉の通り、さまざまな行事や経済活動が制限され、「3密」を避け、マスクや手洗いを行う、新しい生活様式や習慣が求められてきました。そのため、衣食住の生活を初めとして、文化・芸術の活動においても様々な変革を求められてまいりました。

令和2年度は、文化協会の事業や「市民文化祭」は中止になりました。本年度は、市民文化祭の24事業の内、13事業が開催できました。しかし、開幕式とトークショーを初め11事業が中止となりました。

文化祭実行委員会の総括会議では、10月に開催を予定した団体からは、「開催できなくて本当に残念だった」との声や「日常的に行ってきた練習ができないため開催できなくて残念だった」との意見が出されました。

また、「練習や準備に戸惑ったが開催できてよかった」と、心配や苦勞を伴ったが開催できたことを成果として確認できました。

コロナ禍のもう一つの果は、「わざわざ」ではなく、成果の果です。文化祭で学んだことは、「定期的な練習の積み上げ」の重要性や「高齢化による会員の減少を本気になって取り組んでいきたい」、さらに、「来年こそは、是非開催したい」と新年度に向けた固い決意が明らかになったことです。

人々は、文化や芸術活動によって、自然や生活環境に適應する能力を育んできました。春の訪れと共に、「枯野に、一つ一つ芽を出し、一面の草原となり、やがて花を咲かせ、実を結ぶ」そのような令和4年になりますことを、さらに、皆さまが益々健康で楽しい生活が送れますことを心から祈念を致します。

目次

令和4年新春のつどい	1	鹿沼市書道連盟	3
会長新年あいさつ	1	絵手紙鹿友会	3
鹿沼市美術協会	2	鹿沼マンガイラスト協会	4
筆遊会	2	編集後記	4

コロナを乗り越えて

鹿沼市美術協会 会長 渡辺 ふう

第38回美術協会展は、文化活動交流館の入口に山法師の花が白く清らかに咲きほこる5月の時でした。展覧会の期間中たくさんの方の来場者を、その白い花がお出迎えしてくれたように思います。前年度がコロナの影響で中止となった為か、出品者も密度の濃い作品が多く、見応えのある展覧会になりました。一度に20名までという制限を超える時もあるなど、皆様も待っていて下さったのかと文化の関心の高さにあらためて感謝致しました。

協会の行事で毎年本展と共に続けられてきたのが小品展です。32回展となる今年は、チャリティー小品展として11月に開催致しました。

求めやすい作品でという意見が生まれ、サムホール以下の小品と決めました。絵画や版画・工芸などの作品で会場が埋まり来場者も多様な作品を楽しんで下さいました。売上金の一部を古澤育英会に寄付ができ、会員一同来場者の皆様に感謝を致しました。

その他10月には美術館ツアーとスケッチ会なども行い、県立美術館で開催中の芸術祭を見学致しました。会員の中には審査員や工芸・絵画に出展している方が多数いる為に内容の濃い鑑賞会となりました。

理事会にて自宅に飾りやすく

一年を通しますと5月の美術協会展に始まり多くの行事が盛り込まれています。会員一同更に高みを目指して、新たな思いで創作活動に励んでおります。



鹿沼市美術協会展(令和3年5月)



栃木県立美術館見学ツアー(令和3年10月)



チャリティー小品展(令和3年11月)

美しく 麗しく 色っぽく

筆遊会 代表 井上 瑞空

筆遊会は、書道を通して書く楽しさや表現する面白さを学び、先人たちの優れた書を手本にしながら日々精進しています。なかでも、鹿沼市にゆかりのある相沢春洋先生の『かな書道』を手本にしながら書くことが多いです。

『かな書道』の特徴は、まず二つ以上の文字を続けて流れるように曲線で美しく書きます。私の師は「水の流れるがごとく下に流れる時は早く書き、上へ昇る時はゆっくり」とよくおっしゃっていました。

また、文章を散らして書き、あえて行を揃えずに書くことも特徴です。紙全体を見て、空間・余白の美しさを考えながら、線の太さや大きさ、文字と文字の間隔など様々なことに変化をつけていきます。

このような自然な美しさと整えられた自然な美しさを織り交ぜて作品の麗しさを表現します。

最近、生徒さんを見ていますと、かなの醍醐味のひとつである長く伸びる『し』の書き方に成長を感じさせられます。きれいにさせるためには、長くそして少しだけ曲線にすることが求められ



北押原コミュニティセンターで開かれた筆遊会(令和3年12月)



ます。かといって、長くしすぎるとだらしくなくなり、曲線にしすぎてくどくなってしまう、直線では色気がない。これらの塩梅がとても難しい点です。これらの微妙な長さや曲線の表現が日々の練習によって、とても美しく色気のある『し』になってきました。

令和3年度は、10月に文化祭書道展、1月に書初展に出品し多くの方々に見ていただきながら、良い刺激を自他に与えているのではないかと感じています。筆遊会は、北押原コミュニティセンターにて第1・3木曜日の午後2時から筆に遊び、時には世間話に盛り上がりながら楽しい時間を過ごしています。

鹿沼市書道連盟のこれから

鹿沼市書道連盟 副会長 板橋 和子

当会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前回は開催されなかった第43回鹿沼市民文化祭書道展への参加協力をしました。会期は10月22日(金)から24日(日)まで開催されました。秋のことばや、人々へのメッセージ等、おもしろいことばで表現されていました。それぞれの努力の結晶である、すばらしい作品が並び、無事終了となりました。

当会は、昨年は開催されなかった、第49回鹿沼市民書初展への参加協力をしました。高校生から90代まで幅広い年代の作品が並び、サプライズで佐藤信市長の書も飾られました。会場には、雪割草等花々が飾られ、市民の熱心な交流の場となりました。

2年間開催できなかった鹿沼市書道連盟展が、ようやく3月に開催される運びとなりました。

日本の伝統文化の書道の輪が、ますます広がっていきますように願っています。



第43回鹿沼市民文化祭書道展(令和3年10月)



第49回鹿沼市民書初展(令和4年1月)



開催できてよかった絵手紙展

絵手紙鹿友会 会長 高橋 進

恒例の『心に花咲くチャリティー絵手紙展』と『心耕す絵手紙展』は、令和2年はコロナ感染症流行のため中止となり、令和3年こそはなんとか開きたいと、準備をしていました。でも、9月に花木センターで開く予定だった『心に花咲くチャリティー絵手紙展』が感染拡大で開けなくなり、中止も考えましたが、めげずに延期することになりました。しかし、会場の都合で11月開催となり、市民文化祭『心耕す絵手紙展』と同時開催となりました。

花木センターでの展示会は私が、文化活動交流館での文化祭の展示会は副会長の柏木弘己さんが、指揮を執り乗り切りました。

絵手紙はそもそも、個と個を結ぶコミュニケーション手段ですが、1年間学んできた成果を発表し、他の人の絵手紙を見たり、来場者のご批評を聞いたりして、学ぶことも、とても励みになるのだなということも、改めて実感しました。絵手紙展終了後は、出品者の分担で心を込めた絵手紙のお礼状を書きました。それを受け取った来場者の方が、下野新聞の読者登壇欄に、「絵手



「心に花咲くチャリティー絵手紙展」受付付近 花木センターにて(令和3年11月)



「心に花咲くチャリティー絵手紙展」会場奥より 花木センターにて(令和3年11月)

紙をもらって魅力を再認識」と題する投稿がありました。そこには、「飾られていた絵手紙が素晴らしく、学ぼうものがたくさんあったり、お礼状にあった絵手紙に柚子が描かれていて、繁忙な日々の中で、ゆったりとした穏やかな気持ちにさせてくれました。」というような内容が綴られていました。

簡単な車社会になり、足腰が弱くなってしまうように、簡単なコミュニケーションツールができて、心の絆が弱くなってしまうような気がします。絵手紙で心の筋トレをしませんか。

集まれ！マンガ・イラスト愛好者

鹿沼マンガ・イラスト協会 事務局長 福田 純一

マンガやイラストは、アニメやゲーム、デジタルアーツと共に若い世代を中心に人気の分野です。文化庁が毎年「メディア芸術祭」を開催し、優秀作品を表彰しているように、今や日本を代表するポップカルチャーとして高く評価されています。

鹿沼市でもマンガやイラストを描く人が増加しており、プロ作家として活躍している人も出ています。しかしほとんどの場合、作品を発表する場はインターネット上や同人誌などに限られ、地元で作品を披露したり交流したりする機会はほとんどありませんでした。

そこで、マンガ界のレジェンド・ちばてつや先生が学長を務める宇都宮市の文星芸術大学の協力を仰ぎ、市民文化祭に「マンガ・イラスト部門」を新設しました。今から3年前のことです。すると予想を超える反響があり、若い世代を中心に多くの作品が寄

せられました。同展はその後毎年開催され、(昨年度は市民文化祭が中止になったため独自に開催)作品のレベルも年々向上しています。

これを受けて、同展に作品を寄せた方々に声をかけ、「鹿沼マンガ・イラスト協会」を設立することになりました。準備会で会合を重ね、組織や会の在り方を検討し、昨年11月23日、市民文化センターで設立総会を開催しました。記念講演会として鹿沼在住の人気マンガ家である高口里純先生をお招きし、「マンガ・イラストを志す

若者へのメッセージ」と題して、自らのマンガ人生について語っていただきました。現在、約20人の方が会に参加し、活動を開始したところですが、交流や研修のほか、マンガやイラストを宣伝や広報に活用したい企業や団体からの作品製作依頼の窓口としても活動いたします。マンガやイラストがあふれる楽しい鹿沼を作るために、たくさんの方々の参加をお待ちしています。また、4月からは鹿沼市文化協会にも加盟します。どうぞよろしくお願いたします。



鹿沼マンガ・イラスト協会設立総会 記念講演会にて(令和3年11月)

Illustration by ナッツN, のぞみ, 岡田びよあき

集まれ！マンガ・イラスト好き

設立します！

鹿沼マンガイラスト協会

Kanuma City Comic Illustration Association

鹿沼マンガ・イラスト協会は、市内のマンガ・イラスト愛好者の組織です。会員の交流や情報交換のほか、マンガ・イラストに関するお仕事も承ります。会社や組織のPRにマンガ・イラストを使用したい方は、事務局までお申し込みください。

年会費	学生	1000円
	高校生	500円
	賛助会員	5000円

設立総会
とき 11.23 (火・祝)
13:00
ところ 鹿沼市民文化センター 大会議室

記念講演会
鹿沼ふるさと大使
講師 漫画家 高口里純 先生
代表作 「花のあすか組」 「ロantaiBABY」

新型コロナウイルス対策として、マスク着用および換気、消毒をお願いします。コロナ感染状況によって開催内容等を変更する場合がございますのでご了承下さい。

編集後記

令和4年も3回目のコロナ禍を迎える事態になってしまいました。昨年暮れごろは、第5波が収まりつつあるかの如く見えたのですが、年明け間もなく、オミクロン株が急激な感染拡大となり、とうとうまん延防止等重点措置が適用され、また、自粛生活となつてしまいました。

今冬の気候は乾燥がひどく、心身共に潤いをなくしている状態です。せめて心の潤いを、趣味や文化活動で補いたいところですが、それも思うようになりません。「新春のつどい」と名を変えた年頭の行事は何とか無事開催できましたが、他の事業、活動は平常に戻ることができていません。何とかコロナと共存して平常に戻れるよう努力する必要があるでしょう。特に文化祭等は昨年より多く部会が開催できるよう、知恵を絞っていききたいところです。

今回、「鹿沼マンガ・イラスト協会」のご投稿をいただきました。そして、文化協会に加盟とのこと、大変うれしいニュースです。これからも、どんどん新しい部会が増えていくことを望んでいます。

とにかく、1日も早くコロナの退散で、平常の生活ができる日々を望んでやみません。

(編集委員 斎藤千恵子)

《編集委員会》



黒川 榮三
板橋 和子
寺崎 昌子
小林 夏江
斎藤 千恵子
大貫 宗正